

小金井市農業振興計画に関するヒアリング（中間報告②）

【J A東京むさし・農業委員】

ヒアリングにご協力いただいた方：

- ◆小金井市植木組合
鴨下 繁政 氏（組合長）、豊田 一幸 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆小金井市農生産物組合
島田 重行 氏（組合長）、大石 和孝 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆小金井市果樹組合
鴨下 雅一 氏（組合長）、豊田 一幸 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆東京むさし農業協同組合小金井地区青壮年部
萩原 英幸 氏（部長）、高橋 健太郎 氏（副部長）、中村 憲晃 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆東京むさし農業協同組合小金井地区女性部
水村 豊子氏（部長）、神成 茜氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆小金井市植木組合若葉会
高橋 信也 氏（委員長）、豊田 一幸 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆小金井ファーマーズ・マーケット出荷者会
大澤 利之 氏（会長）、豊田 一幸 氏（J A東京むさし小金井支店指導経済課）
- ◆小金井市農業委員会農政部会
岸野 有次 氏、渡邊 雅毅 氏

1 農業振興計画に期待すること

1-1 PR

- ◆小金井が植木のまちであったことや、市内で植木を生産していることをより多くの人に知ってほしい。
- ◆ファーマーズ・マーケットでも植木に関する問い合わせが可能であり、販売していることを周知していけると良い。
- ◆小金井市で果樹が生産されていることをより多くの人に知ってほしい。
- ◆小金井の農業者・農園の情報が載っているマップ等があると良い。

1-2 読みやすさ

- ◆デザインを工夫する等、読みたいと思えるような、ワクワクする資料にしてほしい。
- ◆子どもが読んでも分かるようなつくりにしてほしい。

2 現状と課題

2-1 営農・経営

- ◆キウイの摘み取り体験は人気がある。告知をしなくても、リピーターや、口コミで既に情報を知っている人が多い。信頼を積み上げていくことが大事のように認識している。SNSでPRするほどの販売量はない。
- ◆新型コロナウイルスのため、密に気を付ける必要があり、摘み取り体験を実施する上で影響がある。
- ◆農業振興を考えるにあたり、生産意欲が高い農業者と農地の維持に比重を置いている農業者では、置かれている状況等が大きく異なるため、分けて考える必要があるように思う。

- ◆収穫体験イベント等の実施については、他で実施する場合の影響も鑑みながら、安価にし過ぎないようにする必要があるように感じる。
- ◆キウイ等は収穫が年一回のため、台風等による被害が懸念される。
- ◆果樹の草生栽培を行っているが、生産緑地に対する市民等からの目や農地パトロールで指摘されるのではないかと考えてしまう。栽培方法について理解してもらえるような取組があると良い。
- ◆近年気温が上がっているため、新たに柑橘類等の生産が可能になった。
- ◆蜂蜜を生産する農業者が増えてきている。
- ◆東京都等の補助金を受けてハウス等を購入・設置した場合に、150万円を超えるものに対しては、償却資産税が課せられるため、補助金による効果が弱くなる。
- ◆認定農業者の補助金を活用している農業者も多く、助かっていると聞く。農業者として活動する上でメリットが多い。
- ◆認定農業者として認定されるために必要な農業経営改善計画書を提出することに不安や抵抗がある等の理由により、申請をしていない農業者もいる。
- ◆防災兼用農業用井戸の整備（都市農地保全支援プロジェクト）の補助金を利用している農業者も一定数いる。
- ◆植木農家には若い世代が少なく、後継者が不足している。動ける人が減ると、植木農業の存続が難しくなる。
- ◆全体的な傾向として、植木を植栽できるような庭が減少しており、新規の顧客も少ない。今後都内での普及は難しいように思う。
⇒都内には、大きいトラックが停められる駐車場があるところが少ないため、軽トラックで複数往復し、大きいトラックに処分物を乗せ換える等の手間がかかる。
- ◆端境期の対応を考えている。端境期を無くす（短くする）ような取組案が出てくると良い。
- ◆自分なりの作付計画によって野菜の生産・販売を行っている農業者が多いため、消費者の意見やニーズを研究し、情報提供できる仕組みがあると良い。
- ◆同じ野菜が同時期に大量に生産されるため、売れ残ってしまう。生産と出荷時期をずらす等の工夫をすれば、対応できることもある。
- ◆農業収入を増やすためには、売り上げを上げるためのリサーチを行う等、生産者側の意識の向上が必要である。
- ◆地方の特産品等の生産にも力をいれ、差別化を図っている。
⇒珍しい野菜は、認知してもらい一定量の販売につなげるまでに時間がかかる。効果的な対応（情報発信等）を考える必要がある。

2-2 販売・流通

- ◆専門の植木卸事業者を通して、新・旧国立競技場や有名な遊園地等にも小金井の植木が使われている。
- ◆その他、各植木農家のホームページでの販売や、東京植木農業協同組合からの受注が多い。
⇒ホームページを持っていない植木農家にも組合に入ってもらい、JAを介して紹介できると良い。
- ◆ファミリー世帯を中心に小金井市内の人口が増加しているからか、植木を植えたい人や、苗木の配布を喜んでくれる人が増えている印象。
- ◆植木は、花が咲くもの（モモや菊等）や、色づくもの（紅葉等）が人気である。
- ◆花が咲く植木は、切り花にしたり、セット（菊、南天等）で販売する等の工夫をすることで単価を上げることができる。
- ◆市内のスーパーからも地場産野菜の要望がある。
- ◆地場産野菜の生産量が少ないため、他市のものより比較的高く売れる。
- ◆ファーマーズ・マーケットは、直売所として十分な対応をしてくれているように感じている。
- ◆学校給食にイモ類、大根、なす、ブロッコリー等を卸しており、出荷量は毎年増えている。
- ◆規格外の野菜は、別途売るほどの量がないため、ファーマーズで割引販売してもらっている。
- ◆幅広く野菜を受け入れるため、JAでは規格を設けていない。

- ◆生産・販売するにあたり、近くに多くの消費者がいるメリットは大きい。
- ◆親世代の高齢化等により、農業者の子どもがJAに出荷しにくくもある。
- ◆農業者はJAに農産物を運ぶことに抵抗はなく、出荷にくる人も増えている印象。JAへの出荷は、農業者間で情報交換の場にもなっている。
- ◆販路や売り上げよりも、生産量が足りていないことを課題に感じている。しかし、現実的に生産量を上げるのは難しい。若い農業者に頑張ってもらう必要がある。
- ◆生産量を上げるためには、コストをかけても、回転率を上げる、冬場も温度を保つためにカーテンを利用する等の工夫が必要。
- ◆販路が広がれば生産量を増やしたいという農業者からの声も多いので、販売に力を貸してほしい。
- ◆自分の農地で直売をしている農業者もいるが、盗難等のリスクがある。自動販売機を導入する農業者も増えている。
- ◆自身のペースで耕作が出来ない、規格の野菜を出すのが大変等の理由から、学校給食に参入してもらうことが難しい。
 - ⇒野菜の規格の幅が狭いので、もう少し幅を広げてくれると助かる。多品種を作っていると、規格や出荷のタイミングを合わせるのが難しい。
 - ⇒少数の野菜に生産を集中する、ビニールハウスを利用することで、より安定した生産が可能になる。
- ◆ファーマーズ・マーケットで定期的に行われている感謝祭のようなイベントを、生産組合主体で開催する等、販売の助けになるような取組を行いたい。
- ◆「庭先販売あっせん事業」等の売り上げにつながるような支援ができるといい。
- ◆B品C品も販売できるようになると良い。
- ◆小金井には特産品がないため、「小金井といえば〇〇！」といった特産品があると良い。
 - ⇒まずは、より多くの市民に、小金井に農業があることを知ってもらう必要がある。
- ◆珍しい野菜を周知し、販売につなげるために、JAで試食販売を行った。試食販売はお客様のリアクションが分かり参考になる。ファーマーズ・マーケットで販売している調味料等の商品とセットで売ることでもできる。
- ◆買取をしてくれる店舗に卸すと、卸単価は減るが、固定収入となるため、月の販売金額や生産量を事前に計算することができる。
- ◆ファーマーズ・マーケットで商品紹介用のPOPを作成してもらう等、職員の協力を得るのも販売を向上させる一つの方法である。ただし、単純に頼るのではなく、消費者にアピールできるような情報を自分で集めることも大切である。

2-3 農商連携

- ◆商業者が農地を見学に来ることがある。対応に慣れていない、作業時間が潰れてしまう等の理由で断る農業者もいる。
- ◆顔見知りになった飲食店から直接農業者に要望が来ることもある。飲食店の数が増えると個別に対応していくのは大変である。

2-4 農x〇〇

- ◆JA女性部と小金井市経済課消費生活係が共同で料理教室を開催している。
 - ⇒定年した男性や、赤ちゃんを連れた若いお母さん等の参加も増えているが、全体として、高齢の参加者が多いように感じる。
 - ⇒教室の場所を、緑分館からファーマーズ・マーケットに変更し、より幅広い層の市民に参加してほしい。
 - ⇒夏に開催しているため、夏野菜を利用しているが、種類が限られているため毎回同じようなメニューになってしまう。
- ◆植木組合の地域貢献事業の一環で、幼稚園や保育園の剪定をボランティアで行っている。
 - ⇒口コミで広まり、依頼がくる。感謝の言葉をいただくことも多い。
 - ⇒現在は新型コロナウイルスの影響で中止している。

- ◆植木農業全体の傾向として、流通・販路が減少しており、注文が入らず困っている生産者が多いように思う。
- ◆授業の一環で子どもたちが農園の見学に来る。
⇒学校の先生が、種を蒔いてから実がなるまでの一連のプロセスを鑑賞できる動画をつくり、教材にしているケースもある。
- ◆温暖化が問題になっているにも関わらず、緑が増えない印象。公共事業等を介し、公共空間の緑被率を上げられると良い。

2-5 農の体験・援農

- ◆農に対する興味が高まっているように思う。畑さえあれば手伝いたいという人もたくさんいる。この機会を逃さず、農を広めていきたい。

2-6 情報の受発信

- ◆農に興味関心がある人は、女性が多いように感じる。そういう人がインフルエンサーになると情報や活動が広がっていくのではないかと。

2-7 コロナの影響

- ◆新型コロナウイルスによる制約でイベントや教室の開催が難しい。
- ◆在宅ワーク等が増えたことで庭造りの時間ができ、植木を購入する人が増えている印象。

2-8 組合の運営・活動

- ◆女性部の会合に参加してくれる人（特に若い世代）や、役員の担い手がいらない。
- ◆以前は組合で視察研修を兼ね旅行に行っていたが、最近はJA本店の手入れ作業時以外に集まる機会がない。
- ◆事業がないため他市との交流がない。植木が盛んな国分寺市等、他市との交流の機会がほしい。
- ◆コロナの影響もあり、最近は部として十分に活動ができていない。農業者間のコミュニケーションが十分にとれていないように感じる。
- ◆昔は、農業者の集まりも多く、一緒に過ごす時間も長かった。その頃のほうが、活気があり、農業もうまくいっていたように思う。「こうゆうの作るといいよ」などの情報をもらえ、「この人がやってるからやってみよう」等、新しいことに取り組むきっかけにもなった。今はそういう場が全体的に減っている。
- ◆植木苗木の無償配布
市の予算で、春と秋に2回、抽選で各回400人（計800人）に苗木を無料配布している。
⇒配布は当選した人を対象にしているが、募集要項を知らない人も多く、毎回質問を受ける。小金井市報に無料配布の情報を掲載しているが、記事の枠が小さいため、見逃している人も多いことから、もう少し目立たせてほしい。
⇒例年500名くらいから応募があるが、今年は1,000名に達した。
- ◆キウイの無償配布
農業祭にて、災害募金を実施し、募金者にキウイの無償配布を実施している。
- ◆勉強会等の実施
生産組合の農業者を対象に、種子や苗の斡旋や、勉強会を開いている。

3 取組アイデア

3-1 営農・経営

- ◆分かりやすい法制度を周知するハンドブックのようなものがあると良い。

【農地の貸借】

- ◆農地の貸借は、農地を貸したい人を探すことが難しい。農地の貸借を促進するためにも、農地を貸す側の勉強会が必要である。
- ◆青壮年部が貸借の仲介を担うことを検討している。青壮年部が間に入ることで貸す側の不安を軽減できると良い。
- ◆農作業がきつく、生産量を減らしている高齢の農業者も多い。そういう方の農地の一面を借りて、生産を増やしていけると良い。それが進むと新規就農者も受け入れられるようになる。

3-2 農 x ○○

【料理教室】

- ◆季節の様々な野菜を知るきっかけにもなる季節ごとの料理教室や、忙しい人の助けになるような保存食の料理教室を開催したい。

【植木】

- ◆公園（低未利用）の植栽や剪定等の協力は可能である。
⇒植木が生産されていることを知ってもらえるきっかけになるといい。
- ◆市民を対象とした、植木技術の披露や剪定の講習会等の機会が設けられるといい。
⇒安全確保のために、大きな刃物や機械を使わない、保険に加入する等の対策が必要。
- ◆剪定や造園は、マニュアル化出来ない作業のため、基本的には市民に教えるのは難しい。
- ◆子どもを対象とした昆虫観察や採集等のイベントを通して植木生産のことを知ってもらえると良い。穴を掘ると沢山の昆虫がいるし、植木によって寄ってくる昆虫が異なるので楽しいのではないかな。
- ◆近年、農業祭の絵画コンクールで植木の絵が出ていない。社会科授業やイベントを介して、小金井の植木やその歴史について知ってもらえると嬉しい。
- ◆個人宅での剪定作業は技術を要するため、公共の草刈り等、専門技術を要さない作業の援農は助かる。そのような援農希望者を集める仕組みがあると良い。
- ◆農業祭で剪定をライブで披露するのは難しいが、木が植わっている農地であれば可能である。
- ◆生け花とのコラボや、枝を提供してアーティストに作品を作ってもらえる等の取組は可能である。

3-6 情報の受発信

- ◆農業者によるタイムリーな情報発信は、他の作業もあるため難しいかもしれないが、簡単な仕組みであれば取り組んでもらえるように思う。
⇒ファーマーズ・マーケットに出荷に来る際等に、JAの協力を得て情報を発信できると良いかもしれない。